

令和元年度第2回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和2年3月27日（月） 午後4時00分～午後4時47分

場 所 恵那市役所西庁舎4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

(1) 新型コロナウイルスの対応について

(2) GIGAスクール構想について

出席構成員：恵那市長

(6名) 教育長

教育委員

小坂喬峰

大畑雅幸

鎌田基予子

樋田千史

西尾修欣

村松訓子

事務局： 副教育長

教育委員会事務局長

教育総務課長

教育総務課係長（記録） 古屋恵子

安藤一博

加藤真治

西尾克子

開会（午後４時 00 分）

■事務局（西尾教育総務課長） 令和元年度第 2 回恵那市総合教育会議を開催します。
設置要綱第 5 条に基づき会議を公開し、第 6 条に基づき議事録も公表します。

1. 市長、教育長あいさつ

■市長 年度末の忙しい中、コロナウイルスが世界中を占拠している状況です。まず新型コロナウイルス対策に関する、恵那市の状況についてお話しします。報道にあるとおり、状況は日々、刻々と変化しています。子どもたちが置かれている環境、政府の考え方など、いろいろな情報がある中で、特に子どもに関することは日々変化し、それに一生懸命付いていっている状況です。個人的な感想として、消費税が 10%になったことに合わせて、GIGAスクールネットワーク構想に対する予算が国の大型補正予算に計上され、日本中でGIGAスクールネットワークの構築がスタートしたところです。これが 1 年早く構築できていたなら、自宅でも勉強ができたことになります。非常に時間的には厳しいところですが、一刻も早くGIGAスクール構想の実現に向けて整備することこそが、こういったウイルスを含めたリスクに対する一つの回避になるのではないかと考えています。

ある本を読んだところ、人類は何万年という歴史の中で、3つの大きなリスクに耐えてきた。一つは戦争、一つは飢餓、もう一つは疫病。人類がこれに立ち向かって勝てたのはここ数十年の話で、ついこの間までその3つ全てがリスクとして人類のすぐそばにあったとありました。いま改めてコロナウイルスが世界で蔓延していますが、これは今までに何度もあったことなので、これを生き延びることは必ずできる。そんな意味ではこれを一つの教訓として私たちは次の世代に向けて、足腰の強い街であり、人であり、子どもであると、そのようにしていかなければいけないと思っています。本日も活発なご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

■教育長 定例会に引き続いての会議、ありがとうございます。本日の議題 2 点について、できる限り、大勢の委員さんにご意見を賜りながら、市長さんからもご指導いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2. 議題

2-（1）新型コロナウイルスの対応について

■事務局長 新型コロナウイルスの対応について資料に基づき説明。2月27日に首相が小中学校全国一斉臨時休業を要請したことにより、28日の校長会で方針を決定し、3月2日から26日まで臨時休業となった。その間、子どもの居場所づくり、給食食材の対応、卒業式・修了式の在り方、修了式のバス通学についてなど、恵那市が行った対策について説明。

■副教育長 各学校での取り組みについて説明。すべての学校において、電話やメールあるいは家庭訪問を行うことで、児童生徒の状況把握、保護者の要望等の把握に努めている。分散して保護者とともに学校に学習プリントを取りにきていただく、学習教材等をW

e bで配信するなど、学校それぞれが工夫を凝らして行った。また多くの学校で学習の参考となるWe bサイトの紹介なども行っている。ホームページ上では、家庭内でもよく手を洗い、咳エチケットも実施するよう周知。またよく睡眠をとって、免疫を高めることが大切だと保健指導も掲載している。学童保育やコミュニティセンターで日中、過ごす子どもたちがいるため、管理職や学習支援員、そのほかの教員を交代で派遣し、子どもたちの居場所づくりの把握を行っている。3月15日からは子どもの居場所づくりとして、各小学校でも臨時預かりを行っている。

学校のWe bサイトについては、子どもたちや保護者が安心できるよう、更新を早くするよう各学校に依頼したところ、多くの学校で対応してもらっている。平時と比べ、アクセス数も伸びている状況で、学校と子どもをつなぐ一つの手段となりえたと思っている。

■教育長 文部科学事務次官からの「令和2年度における小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開等について（通知）」を基に、岐阜県教育委員会の見解について報告。

3月25日の午後、テレビ会議システムを利用して、県内6ブロックの代表教育長の会議があり、2つ質問をしました。一つは、市内で感染者が発生した際、市全体の学校を休校にする必要があるのか。どれぐらいのレベル、規模、期間について、およその目安があるのか尋ねましたが、明確な回答は得られず、それぞれの自治体で管内の保健所等と連絡を取りながら決定してください、県は、相談は受けるが指示は出さないとのことでした。二つ目にはバス通学の件です。貸切バスの手配等で予算が必要となりましたが、補助はあるのか確認をしました。こちらもしっかりとした回答はありませんでした。ほかの教育長もいろいろと質問はしましたが、実質的には文科省がHPに掲載しているQ&Aの範疇で答えてくださるだけで、特に目新しいことはありませんでした。会議といっても、それぞれの教育長が質問し、他の教育長はそれを見ているだけでしたので、他の教育長が何を思われたのかは分かりませんでした。東濃5市の教育長とは連絡を取りながら情報収集に努めています。今回については急だったこと、これから市で決めていくことが多く、中学校の卒業式についても市によって異なりましたし、改めてこのようなことが本当に起こったときには慌ててしまうと痛感しました。

臨時校長会を何回か開催しましたが、最初に校長に指示したことは子どもたちとつながってくださいということです。小規模の学校も多いため、手段についてはいろいろな方法がありますが、まずは毎日HPを更新してメッセージを送る、生活についてアドバイスをすることを依頼し、私も毎日全部の学校のHPを見ました。今まで何か月も更新していない学校も、結構更新していました。毎日更新できなかった学校もありましたが、よく更新できたと思います。それに比べて、保護者の皆様には本当にいろいろとこらえていただいたこともあったと思いますが、よく協力していただけたと思います。また、市の会議を受けて、臨時校長会でも話をしますが、教育委員会の在り方について改めて難しいと感じました。教育委員会は各校長に対して服務監督、指導助言という範疇の中で、指示命令も共通理解を図り、協議をした上で行うことになるため、強く命令

することはできません。意見を聞きながら、最終的に共通理解を図り決定していくことになります。それでも中学校の卒業式、小学校の卒業式など、一律同じようにはできませんでした。苦情まではいきませんが、情報収集をするといろいろな意見が聞こえてきましたので、今後の教訓としていかなくتهはいけないと感じました。

■教育総務課長 事務局から説明したことについて、教育委員さんにご発言いただきたいと思います。

■鎌田委員 このような非常時というか災害時に必ず思うことは、その時の人の行動、今までなされてきた教育がすごく大事だということです。岡崎市の藤田医科大学病院がクルーズ船の陽性の方を受け入れた際、経過観察の方や医療従事者、かかわっているスタッフに岡崎の小学生が寄せ書きを送ったというニュースを拝見しました。それにものすごく励まされたと卒業式にスタッフの方たちが、“おもいやり”という花言葉があるチューリップの花を持ってお祝いに駆け付けたという記事も拝見しました。子どもたちの持っている力はすごいということと、子どもたちの持っている力が学校という集団で引き出されると感じました。大人は子どもに恥じないように生きなくてははいけない、子どものお手本とならなくてははいけないと思いました。危機管理の際、教育委員会に携わる者として教育の視点でいろいろなことを考えられました。

■樋田委員 コロナについて、いろいろな情報が流れています。良いか悪いかは分かりませんが、私が子どもたちに伝えたいことは、「情報弱者になるな」ということです。一つの情報を真に受けて、本当か嘘か分からないうわさ話を信じて人に伝えてしまう。そこで、情報弱者ではなく情報強者になって、いろいろな情報を得て、その中で自分が正しいと思う話を判断する。授業でもそうですが、いろいろな資料から情報を収集しますがその中から選択して、最終的には結論として判断する、あるいは決断することが大事だと話をしてきました。今回もいろいろな情報が出てきます。都知事は不要不急な外出は避けるよう言っていますが、自分だけが良ければいい、自分がかからないからいいなど、そういう考えを持っている人はいると思います。しかし、私たち大人としては情報を正しくとらえて、実践するよう、保護者の方にも伝えていきたいと思います。すでに世界で40万、50万を超えている、オリンピックについてもいろいろな情報が飛び交っている中、自分がどう生活するのか。買い物に出ても、マスクやトイレットペーパーがありません。人は情報に流されてしまう傾向があります。弱い部分はあるかもしれませんが、やはり強くなっていかなくتهはいけないと思います。今回のコロナを乗り越えたことがパワーになるといい。それが満足度になるか分かりませんが、人間として乗り越えてきたということが絶対でてくると思います。絶対乗り越えていけるという強い信念を持ちたい。私たちもこういう立場から子どもたちに伝えていきたいです。

子どもたちの「体を動かしたい」という気持ちは分かりますが、今はその状況ではないことを厳しさを持って教えていかないと、伝わっていかないとしました。

■西尾委員 違った視点からお話しさせていただきます。コロナと言われ始めてからこの2カ月間、市長さんはじめ市役所の職員の皆さん、大変なご苦勞をされてきたと思います。健康福祉などそれぞれの部署でご苦勞をされてきたと思います。特に教育委員会に

関しては学校現場、校長先生をはじめ学校の先生方、そして県教委からのいろいろな情報を学校に届けなくてはいけないという使命を負った職員の皆さんが、ずいぶん苦勞をされてきたのだろうと思います。まだ収束したわけではなく、これからひと月か二月かもしかしたら半年以上続くのか分かりませんが、職員の皆さんにはこの難局を乗り切っていただきたいと思います。先ほどからも話が出ていますが、こういう機会に日常の活動がよく影響してくる、表れてきます。普段からホームページを更新している学校は、今回もそれなりにきちんと更新されていました。せつかくの手段ですので、有効に活用していただけるように、今後のITに費用をかけてくださるという計画も伺っています。これからもどんどん活用していただきたいと思います。

- 村松委員 この非常事態、3月からの教育委員会や行政の対応は、すごく大変だったと思います。すぐに会議が開かれ、コミュニティセンターに臨時職員を配置されました。また臨時校長会を何度も開催されたと思います。前代未聞の事態があっても、事務局の方が苦勞されたことにより、今落ち着いている状態だと思いました。一番心配していることは、4月からの新年度が始まってからのことです。子どもたちは危機感がないため、濃厚接触しますし、集中力も欠けています。多分ストレスや運動不足もあって、子どもたちも落ち着かない状況です。まだ前年度の学習も少し残っている。その中でも一番心配なのは、マスクや消毒液の不足です。今後どれだけ続くのか分からないため、不足してくることが一番困ることではないかと思います。今後の見通しがつかないので、4月以降が少し不安です。まだまだこの戦いが続くと感じています。何とか乗り切っていきたい、乗り切ってほしいと思います。

- 教育総務課長 ありがとうございます。市長、お願いします。

- 市長 ご意見をいただき、ありがとうございます。今までの状況については、事務局と教育長が説明したとおりですし、皆さまからのご感想もまさにそのとおりです。この会議の終了後、コロナウイルス対策本部会議が予定されています。その会議で話そうと思っていることは、例えばマスクの話が先ほど出ましたが、マスクが不足しています。今、恵那市の備蓄は1万枚をきっています。特に医療機関や介護施設に関しては、市の備蓄を回していますが、このまま続くとマスクは不足します。市の職員はマスクをしていますが、自分で買ったマスク以外は、手作りマスクに切り替えてもらい、職員は、来週から全員マスク着用にしようと思っています。子どもたちのマスクも用意してあげたいのですが、今の時点では難しいので、ぜひお母さま方、ご家族の方、もし器用な方がみえたら、手作りマスクの作り方など情報は提供しますので、そういった対応もお願いすることになると思っています。今回、学校を休業した理由は、子どもたちを守ることが第一ですが、二次的な効果としては子どもたちを介した高齢者を守るという意味が強かった。それはよくニュースでも出ていますが、感染患者数を減らすことで、医療崩壊を防ぐ。これを少しでも先延ばしにするために、クラスターの恐れがある学校を休業することが政府の考え方でした。4月以降に学校が再開すると、子どもはウイルスに感染してもほとんど発症しませんが、これが家にいるおじいさん、おばあさんに感染する心配があるため、マスクが欲しいという声が市役所に届いています。こういったところを

どのように対応していくかが大きな課題です。4月に入ってすぐに補正予算を組み、対策をとりたいと思っています。それに向けて、学校でできることについても、できる限り対応し、もしウイルスが入っても隣のクラスやほかの学校に広げないなど、対策をいくつか行おうと思っています。これから教育委員会を含めて検討していきます。ぜひ委員の皆様からも、こういうことを行ったらほうがいい、こういう対策もあるのではないかなど、アイデアがあれば寄せていただいて、いろいろな方の知恵を集めて、ウイルスを何とか止めたいという思いです。早急に行いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

■教育総務課長 市長の発言に対し、何かご意見はありませんか。

■西尾委員 次の議題にも関連することですが、このような異常事態、臨時休校などそうそうあることではないと思いますが、今回、このような状況になって、子どもの家庭学習がどれだけ確保できたのか。主にインターネット、ホームページを通じて家庭学習をした子どもが多かったと思いますが、そのインターネットにしてもパソコンを使って勉強した子どももいれば、親のスマホで勉強した子どももいたと思います。そういったネット環境が、それぞれの家庭によって異なるため、学習の内容も変わってくるのかと思います。最低限のレベル、表現はちょっと分かりませんが、もっと広く浅くでもいいので、そういった状況を作るのにCATVが使えないのか。というようなことをぜひ提案したいと思います。確かに一方通行ではありますが、授業風景をCATVで流すことはいかがですか。NHKを始め、全国の各テレビ局がいろいろなパターンで授業を放送しているそうです。せっかくケーブルテレビがあるので、活用できる方法があれば使ってみると面白いのではと提案させていただきます。

■市長 これはぜひ検討させてください。

■樋田委員 副教育長に頼みたいのですが、学校が休業していた期間、子どもたちが一体何をしていたのかという情報を得てください。例えば、テレビやパソコンで学習をしたのか、本を読んだ、家の中で筋トレをした、掃除をしたなど。ピンチがチャンスだと思います。自分たちでどのような時間を過ごしてきたのかを調べてみて、みんなに紹介することによって、よりたくましい生活になっていく気がします。何かの機会に聞いてみてください。

■教育総務課長 ありがとうございます。次にGIGAスクール構想について、ご意見をよろしくお願いします。

■市長 先ほど、西尾委員からいただいたケーブルテレビを活用してはという話がありましたが、GIGAスクール構想が整備できると、子どもたちに一人一台タブレットが配れます。ネット環境さえあれば、家でも学校でも出先でも、どこでも、授業や教材が見られる、ドリルなどの課題ができるなど、いろいろな可能性が秘められています。少しでも早くできればと、昨年実証実験にエントリーしましたが、残念ながら選ばれませんでした。そのときにできていれば、その分の授業は、子どもたちは利用できたことになります。これからはツールとして、もしくはリスクを回避するための一つの手段として利用できるといいと、日本中の人が思っています。

■鎌田委員 ネット環境がないご家庭は、個別に対応されますか。

- 市長 それも一度考えなくてははいけません。恵那市の場合は、ケーブルテレビがあるため、音声告知器があれば、そこから先は物理的には簡単です。ルーターを置き、アミックスと契約するだけで、あまり費用も掛かかりません。他の市町に比べれば、はるかに安い費用でできるため、場合によっては市で負担することもあるかもしれませんし、一時的に、テスト的に使っていただくこともできると思いますので、ぜひ、考えていきたいと思います。
- 樋田委員 早く整備できればいいと思っています。以前にもお話ししたと思いますが、今後プログラミング学習や、いろいろな学習が入ってくる中で、市教委でも研修など行っていますが、教職員だけでは、なかなか広まっていきません。考えてみえると思いますが、外部からも進めていって、恵那市は進んでいるということをアピールするチャンスだと思います。土台もあるので力を入れて進め、学校現場に利用できればいいと思っています。
- 市長 今日の新聞をご覧になった方はご存じかもしれませんが、昨日ソフトバンクさんと連携協定をさせていただきました。ペッパーを2台学校に配置し、プログラミング学習を実施しますし、いろいろなご支援をいただこうと思っています。
- 教育総務課長 そのほかよろしいですか。
- 委員 はい。
- 教育総務課長 大変、時間の短い中でご発言いただき、ありがとうございました。本日予定しておりました2つの議題については終了しましたので、また、来年度も総合教育会議の内容を考えながら進めたいと思います。よろしくお願いいたします。
- 以上で第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。

閉会（午後4時47分）